

要望実現の財源あります 基金80億円

引き続きため込み財政

伊勢崎市の新年度予算では、物価高騰で実質賃金は下がっているが、名目賃金が上がっているため、市民税や固定資産税が2・3%増えました。国からの交付税も増えているため、一般会計は前年比3・3%増の803億円と800億円の大台にのりました。

臂市長就任以来、市の貯金である財政調整基金をはじめ基金の積み立てが大幅に増えました。今年3月末には財政調整基金が前年度から比べ10億以上増え、79億8千万円になりました。その他の基金も含めた基金合計は165億円近くです。特別会計でもオートレース会計基金15億円、国民健康保険の基金が12億円、介護保険の基金が17億円あり、相変わらずのため込み市政といえます。

新年度予算で一部を取り崩す計画ですが、昨年度は取り崩す予定が逆に積み立てを増やしました。

コロナと物価高で二重の苦しみの市民生活をよそに、市政はやるべきことをやらず、基金を増やし続けています。

市民の暮らしの要望を実現する財源は十分あります。

新年度新規事業

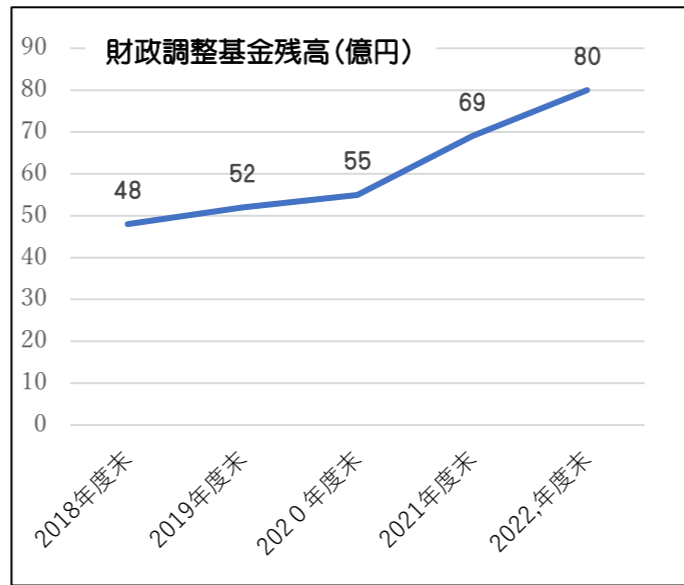
●高校生世代までの医療費無料化

- 学校給食費の物価高騰分の支援 一食50円補助(年間1人1万円)、
- 非課税の高齢者世帯でエアコンの設置のない場合の設置費補助
- 高齢者の带状疱疹ワクチン接種に補助

など、この間要望してきたものが予算化される前進面もありました。

※財政調整基金とは、財源に余裕がある年度に積み立てておき、災害など必要やむを得ない理由で財源不足が生じた年度に活用するもので、市の貯金に相当する。

20年度末臂市長就任時には55億円だったものが、ついに80億円近くにまで増えました。グラフでも財政調整基金が増え続けていることがわかります。



老人いこいの家代替え施設 - 利用は1日6人

市は赤堀地区の高齢者入浴施設老人である「老人いこいの家」を3月末で廃止し、代替え施設として「伊勢崎市交流の場はつつ赤堀」を赤堀保健センターの一室に開設しました。

入浴施設はなく、一部畳のフローリングの部屋に机といす、テレビと囲碁将棋はそなえられています。自由で気楽な空間という宣伝の通り、部屋が用意してあるだけです。5月から月1回スマホ教室が開かれています。あとは気ままに過ごしてほしいということでしょうか。

4月3日に開設し、利用者は4月の20日間で119人、一日平均6人です。訪問した時はその日7人目でしたが、部屋には誰もいませんでした。隣のトレーニングサークルの利用者が休憩に使っているとの話もあり、利用者数に含まれているようです。

始めたばかりということもあるでしょうが、300万円の委託料を払って1日平均6人の利用では、なんとももったいない話です。

赤堀地区の区長さんはじめ1800人の「入浴施設設置の要望書」が、3月17日市長に提出されています。

足引っ張る伊勢崎市の医療費無料

共産党市議団は、高校生世代の医療費無料化の実施状況を調査しました。4月1日の時点で無料化を実施していないのは、伊勢崎市と玉村町、渋川市の2市1町です。

県の半額補助の表明を受け伊勢崎より遅れて決めた自治体もありましたが、4月1日無料化に間に合わせました。渋川市は県が実施する時点で渋川市も実施するということです。伊勢崎市と玉村町が10月1日実施としたために、各市町村の無料化の半額を県が負担する事業のスタートも10月1日となりました。

伊勢崎と玉村が4月1日から始めていけば、4月から県の半額負担の補助が始まったはずですが、全県の足を引っ張ったのが伊勢崎市と玉村町ということになりました。なぜ、最後になってしまったのでしょうか？

無料生活法律相談会

毎月第4月曜日午後6時から
お申し込みは共産党市議まで

介護保険料取りすぎ基金17億円

間もなく通知が来る介護保険料。年金は減っているのに保険料は上がって手元に来る前に天引きされます。年金の少なく現金納付の人はさらに大変で滞納するとペナルティを受けます。

一方で保険料を取りすぎて、市全体の保険料の4・6か月分、17億円が介護保険会計に基金として積み立てられています。今年度は、来年4月から3年間の保険料を決める年です。基金を活用して保険料引き下げさせましょう。

高校生世代までの医療費無料化や、学校給食費無料化などの運動を進めている新日本婦人の会伊勢崎支部の支部大会が、このほど開かれました。

共産党市議員団と小林その子県政対策委員長が来賓として出席。小林さんが「県政を変えて群馬県全体で学校給食の無料化を実現させたい」と挨拶し、大きな声援をいただきました。

支部大会は2年に1度開かれています。今年は30回大会で、創立60年の節目の年になります。

